

版 權 免 許

艾園一彦 閱
大島細吉 編輯



畫引
初等讀本
全

京 都

彫雲堂藏



刊 行 社 有 限 公 司



題 字

京 都 前 田 觀 泉 堂 刊

義通

題字

解



1957
流卷

のりてきりて

足陽能

36 3449



昭和36年9月28日
佐々木剛三氏
贈

画引初守讀本卷之一



大島細吉 編輯

第一章 賢者サトキヒト 愚カオ小見モ必

行状チ正一ツ字を書き

捨てらるセケンノヒトニ
ヒスル一セは用ひらるセケンノヒトニ
カフイガラレル 入ノ



書を讀むときハホンラナ
心ヲ専ヨ
ホカノコトラモワ
ズホンニコ、ロラ

体カダカ
亦然ニ
算用バンロ
誤ガヒ
殊マ

心ヲ用ふべキ
ツケヨ

第二章

一事

學び

記臆して

テホヘ

少づつ

習ひて

モノヲ

勉強

復習

シテ

勉強

一の獸類

ヒトツノ

賞せらる

第三章

戸外

心を

狭き

コノモチ

亦勉むる

遊歩も

アルクモ

此一なり

兄弟

書を開き

我家

猿

男兒

種

紙寫

輪

を廻



毬

投ぐる

馳廻り

他人

妨ぐる

為を

ナケル

獨樂

飛を

静

竹馬

危き

女児

最適

静

捕

總て

聲

驅廻

爰

第四章

雀

朝寢

積上

爰

急情なる人

ハ

寢處

積上

爰

斯此

如き

人

積上

爰

雀

劣る

手

足

親

數多

戲

崩れ

疵

親



憂ウレヒを來キだシきシルシルシルシ

第五章 湖ウミに浮ウカび

小舟コフネ 子コ 坐イりス

釣竿ツル ツルツル 母ハ



ナガラクツクフヘラク
コトガデキル

斯カるアヤ危ウきウ

水ミヅ棹ササをモ持テりル

深フカ一ヒトとソ思モふソやソ

進スむフ子コヤヤ

重オモなりリ

鮎アサギ 曲マ

食クをシてキてキてキ

貯ツケふるホとトをト得ケべシ



此處ココニニ 鯛ウミ 鯉イ 重オモなりリ

食クをシてキてキてキ

漬ヅケ 久ヒサくク

貯ツケ 貯ツケ 貯ツケ

第六章 猪シ

鋭シきシ牙シありシ

鹿シ ツルシ アルシ

害シ ナフシ

梅シ 干シ 幾シ年シをシ経シるシ

紙シ 鳥シをシ昇シきシ

助シ 容シ易シ子シ 落シ降シるシ

地シ 上シ 小シ 空シ 中シ 小シ

絶シ えシ ぎシ 知シ るシ なシ りシ



ウツノアシガ
ヨホドスイ

紙シ 鳥シをシ昇シきシ

助シ 容シ易シ子シ 落シ降シるシ

地シ 上シ 小シ 空シ 中シ 小シ

絶シ えシ ぎシ 知シ るシ なシ りシ

殊シ 子シ 猛シ 獣シ にシ

怒シ れシ るシ フシ 香シ 何シ

紅シ 色シ アシ カシ キシ 紅シ 梅シ

實シ 子シ 其シ 味シ 甚シ 酸シ

幾シ 年シ をシ 経シ るシ とシ もシ

容シ 易シ 子シ 落シ 降シ るシ

空シ 中シ 小シ

知シ るシ なシ りシ



彼等のカノヒト
タチガ
擣ヘモシ
石板
ビレノフテテ
新
アラ
汚き

キクナク
ナル
斯く異き
ハ
コソヤウニ
チカフハ
同級
ワナジ
生徒
ガツカウハ
ユクソドモ

教師
ヤシ
教
モノヲ
使用
ツカヒ
モチル
常
ヲ
器物
ウツハ
モノ

第八章

海上に

浮びた

方
ツケクル



二艘の蒸氣船を見よ。遠き
トラヒ
サカイ
速く
遅き
然
テモ
實は
同
速
度
モ
モ
むも
ユクモ
遠
近
又
因
テ
トホキニ
全
ク

遅速
ハヤキト
○大抵
春
ノ
芽
を
生
ド
枯
凋
ミ
全
ク

ナ
落
去
る
然
松
栢
四
時
常

青樹
ツチニテアル木
其他
落葉樹
ツチアル木

第九章

彼の小

女ハア

コムス



傘を携へり
計り
難
豫
狼
狽
タル
河
ハ

造る
両側
欄干
橋上

往來
河中
落つる
を防ぐ

の為
あり
ヤウニスル
タメナリ



第十章

鳥類 一羽

獸類 虫類 幾匹

魚類 幾尾 草木

幾本 幾株 諸器

何處 欠席 更

狐狸 日暮れて後

求む 欺き 怯氣 其性

言語 衣服 着 理 志

信 勿 志

今朝 雪

積もり

相伴 綿

富貴 食物

傍 狡 猾

提燈 親族

途 中 且 勇氣 怯 人

書 状 貴 命 行 於 志

暗 夜 此 圖 成 也



第十二章



牝 鷄 雛 之 從 夫 斯 之 如 汝 等

餌 直 子 愛 也 異 乃 以 厚 薄



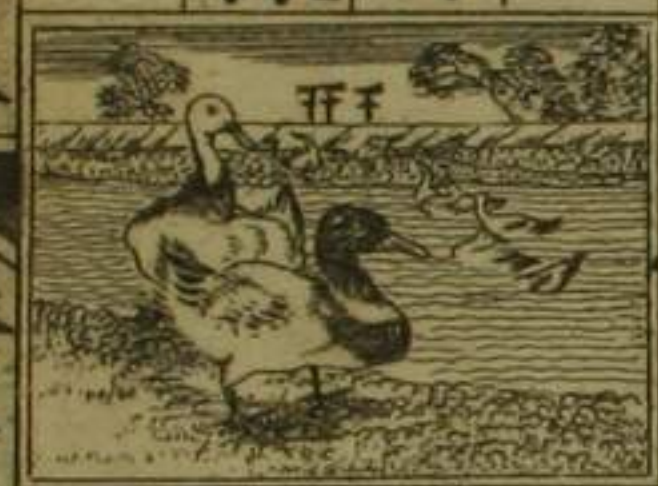
老人 トシヲヨリ
重き荷を擔ひて
山路を登らんと欲す
少年 キトシワカ
苦しい想ひ
涙を流して喜ぶ
丁寧に事ふる

實マコ親ヲ孝ヲ盡ス
ならずん

小學初等讀本卷之一終

大島細吉 編輯

第一章	田島	勤	農	諸物
製造	諸品	賣買	商	何を以ての
食物	容易	求む	貴賤の別	其端
水上を自	鴨	其頸	指	膜
由に游泳	鴨	其頸	指	膜
と得べし	踏	區別	走る	こ



第二章

好むスコカ 陥るトキイ

中英ナニ 馴れヒトニ

獵犬ツキ 終シマフ

夜ヨ 吠ホ 探サガ 報ウラナ 嗅カ 極タガ 銳ス

第三章

數多アツ 樵夫セウボ

勤シゴト 束ツグ 不自由フジユウ 水氣スイキ

鋸ノコギリ 斯コト 薪シ 柴キ

獵師リウシ 潛伏センフツ 其形ソノカタ 各異オノオノ 各異オノオノ 鋸ノコギリ 斧ノコギリ

第四章

繁華ハナカ 市街シカ

家屋カヤ 軒ケン 並ナラ 買カ

客カキ 群グン 為ナ 欺ウソ 欺ウソ

服フク 饑ウツシ 凍ユヅル 恥ハジ 家屋カヤ 軒ケン 並ナラ 買カ

第五章

燃えモエ 燃モエ 終シマフ 息イ 貯ツクリ 冬フユ 土ツチ

強弱キヤク 蟻アリ 甚オシ 強ツヨク

中ナカ 伏フシ 食料シヨリョウ 乏マシ 貧困ヒンクン 陷オチ 冬フユ 土ツチ

衣キ 衣服フク 饑ウツシ 凍ユヅル 恥ハジ 家屋カヤ 軒ケン 並ナラ 買カ



獵師リウシ 潛伏センフツ 其形ソノカタ 各異オノオノ 各異オノオノ 鋸ノコギリ 斧ノコギリ

第六章

誠マコト 言コト 正ただ 直ただ

欺ウソ 欺ウソ 正ただ 直ただ


服フク 饑ウツシ 凍ユヅル 恥ハジ 家屋カヤ 軒ケン 並ナラ 買カ

衣キ 衣服フク 饑ウツシ 凍ユヅル 恥ハジ 家屋カヤ 軒ケン 並ナラ 買カ




誠マコト 言コト 正ただ 直ただ

アタリマヘ
ノ子ウチ
日に加たり
黒くハチイロドレ
モククロイ
大抵
甚知り難
○鳥鳩カラス鳥羽トビ毛皆
定なりや
植物シノモノば害
果物クワ伐傷ツツひニハククダモノ
乾ホス奪去ウヘる
庭園ニゲル乃
第五章 柿カキの實タケ熟クナリく
味カキノア澁カキノア
通常ツツ殆熟ホドして
甚消化ハナクセツク難ウミテ
主キヨホドコナレ
ニクキモノジヤ



遅速シユク柔ヤウラカ味甘アジく
久ヒシきナガ耐タふるコラ
否イナやコラレフカ拳コラをコラ
口クチをクチ閉トぢクぢク
テノコブシ

サ
膝ヒザを多オホクく屈カガめヒして
第六章 野菜ヤサイ
自生ジセイハトリ根ネ葉實エハ薑芋カウ苜蓿モウモク水菜スイサイ茄子ナス
胡瓜クウカ蘿蔔ロウボク蕪菁ウシヨウ根葉ネハ酸スウくク栗クリ燒ヤキき
煮ニてテクク葡萄ブドウ蜜柑ミカン一種イツシュの酒サケを製ツクむ
第七章 數多オホク
の小兒コノコ相集アヒ
ヨリ
ヲホクノコドモ
ガマチナカニ
ヨリ
クカリテ



闘トウてテてテ前後ゼンゴ覺オキえエば
驅カ廻マれレりリ往ウツ來ク
ハキ
妨サマげゲスル
舌シツソウ
生ナイ

徒カクカウス ○斯アスる惡アサき遊アソブをバコノマウナワ
イアンビゴト 牽ケン牛ウシ花ハナ

漏アサ斗コトモツツノノ決カクしてドウ黄ワウ色シキ
イロ 青セイ色シキイロ 檢ケンせよ

珍カハ一ツラきカハリ發ツク見ミイイダダススコトコトガガアル

第八章 鐵瓶テツビン 蓋フタ 大抵テイテイ 銅ドウ 甚堅シツケン

強ツツき熱ネツを與ユふカをケハゲシキヒニカ
漸シヅ々シヅ溶トク

功コウ用ヨウ 鐵テツを以モてモ第ダイ一イチとト一イチ 鑄物テウモノ 金キン属ゾク 其ソノ

價ケン貴キけキまマどドもモ 効コウ用ヨウにニ至シりリてテもモ 甚シツ狭キョウきキものモノとト匹ヒツ スクナセ

夜ヨ將マシにニ明アカけケんとト匹ヒツ 雞トリハハヨヨキ



第九章 獸類ケモノ 頭カビ 尖トカりリススルル 其ソノ歩フミむムアルアル 遲オソいイ

とト雞トリ 比ヒまマれレをヲフフレレババ 筋スジ力チカラ 疲ツカるル 疲ツカるル 疲ツカるル

牽ケンきキ 負オシひヒ 鋤クマスス 耕ウカむム 質シツ強カチ

肉ニク 乳チニ汁ジュ 無ム比ヒ 養ヤウ物モノ 質シツ強カチ

皮カ細サイ工コウ骨ボネハハ 肥ヒ料リョウ 背セ上ジョウ 少シウくク 高カウくク

農夫ノウブ 日ヒ中ナカ 勤チンくク 業ゲウ 業ゲウ 業ゲウ

農夫ノウブ 日ヒ中ナカ 勤チンくク 業ゲウ 業ゲウ 業ゲウ

農夫ノウブ 日ヒ中ナカ 勤チンくク 業ゲウ 業ゲウ 業ゲウ

農夫ノウブ 日ヒ中ナカ 勤チンくク 業ゲウ 業ゲウ 業ゲウ

農夫ノウブ 日ヒ中ナカ 勤チンくク 業ゲウ 業ゲウ 業ゲウ

農夫ノウブ 日ヒ中ナカ 勤チンくク 業ゲウ 業ゲウ 業ゲウ

農夫ノウブ 日ヒ中ナカ 勤チンくク 業ゲウ 業ゲウ 業ゲウ

農夫ノウブ 日ヒ中ナカ 勤チンくク 業ゲウ 業ゲウ 業ゲウ

農夫ノウブ 日ヒ中ナカ 勤チンくク 業ゲウ 業ゲウ 業ゲウ

農夫ノウブ 日ヒ中ナカ 勤チンくク 業ゲウ 業ゲウ 業ゲウ

ウヘスヨシ 殆トホ 平ナリヒラ 産地ウレ 礦物アラガ 調理

デ、イル 健康を保つこと能わざるべし 鹽魚ウシホ 海水ミツ 煮つめ

ツケル 腐敗クサル 防ぐヨイ 蒸發ノホリ 天然よ一塊と

テ タキ 制衣モラヘル ありて ヲノツト カタマリニナル

第十章 日 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

將に暮ん ときガモハヤ あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

ニシニイリテ クレカ、ル あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困



ウシハ サハ 渡場ニバ 再ニ禮を為

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

あり 旅人ト道ハ迷ヒウミタラ 困

均一き ヲナモノ 慎ミ コ、ロ ヲツケテ 使用フツカ 裂き ヲル 汚屯 ヲス

賢哲 キヒト 書籍 ホ 賜 シカラ モノ 貴き チキ 教師 ヲシ

第十一章 古の事を知リ 足ヲ勞セバ

紫色 ヲムラサキ 赤色 イロアカ 青色 イロアヲ 難き カシキ

ひ着けり ヒトツクキニ ナラヒテツクフ 恰長き 総の如し

藤の花 話し得るや 其形ハ

救ひ 誠ニ感ズベキ 行ナリ

辭去れり ヲバシテ 勞ツカ 厭を以

第十 藤の花 話し得るや 其形ハ

勿論 モテロイフマテ

不潔 フチキ

不注意 ツカヌコト

日暖 ヒアツカ

にいて マシヒ

樹 ツキ

美 ウツクシ

総て ソウテ

芽を生 メヲシ

轉 マクル

春 ハル

春日 ハルノヒ

景色 ケシキ

目を慰 メヲユメ

心 ココロ

を樂 ヲタノシ

まゝ マツマツ

めざるもの メダズモノ

目 メ

第十二章

目前 メゼン

に ニ

利益 リキ

有 アル

行 ユク

ふべ フベ

の ノ

仮令 カニシテ

不正 フセ

不幸 フシキツ

大 オホ

利 リ

事 コト

の善 ノトク

有 アル

無 ナシ

獸 ノコ

心 ココロ

貞 マコト



第十三章

汚穢 キタメ

疾 ハヤシ

原 ハラ

死 シ

沐浴 ソク

生命 シヤウメイ

若 ニホヒ

情 シヤウジヤウ

汚物 キナ

漸 シヅカ

積 ツク

飲 ノム

毒 ドク

氣 キ

吸 スグ

飲 ノム

皮膚 ヒ

臭 ニホヒ

氣 キ

無 ナシ

流動 リウドウ

疾 ハヤシ

走 ハヤシ

証 シヤウ

生 ナ

保 タモフ

つ ツ

能 ノ

充 ウツク

ち チ

ざる ズ

處 トコロ

空 カラ

氣 キ

扇 アヒ

動 ウツク

生 ナ

疾 ハヤシ

走 ハヤシ

れ レ

流 リ

動 ウドウ

生 ナ

保 タモフ

充 ウツク

ち チ

ざる ズ

處 トコロ

空 カラ

氣 キ

扇 アヒ

動 ウツク

生 ナ

疾 ハヤシ

走 ハヤシ

れ レ

流 リ

動 ウドウ

生 ナ

保 タモフ

充 ウツク

ち チ

ざる ズ

處 トコロ

ス	小孔	体内	汚水	絶へば	蒸
發	忽	垢の為に	然時	六の故に	
治	治	家の内外を問	時の寒暑に拘		
ら	ら				

小學初等讀本卷之二終

小學初等讀本卷之三

大島細吉 編輯

第一章	已の心に	喜む	好まざる
施すこと	勿れ	獨	專にせ
一事	欲せ	心を專	にして
移	急に	半	ま
バ	撓	徐	ま
んと欲	して	躓	倒る
、終	志	處	に
		到	る
		恐	る
		疲	る

第二章

二人の

男児

ヲト

を乞ふ

よ

ハナシ

ハナシ

レ

ヒ

ニカク



相對して語れり

明日より

歸郷

イタヨリ

他處

親き

他日

友

邊

飛ぶ

世

水邊

の草の腐りたるもの

然らば

第三章

夫

雨後

紫紺

青

緑

黄

紺

赤

七色

正色

其

餘の色

雑りたる色

漸

終

然

雖

聞見

思慮シリヨカン 全マツく 彼カの 禽獸ケモノ 耳ミミあり 目メ

何れナニを 幾年イツネン 經チる 何事ナニゴトに 對シて

徒トニに 過スぐる 者モノを 最モト先スデ 最モト先スデ 一イツ列レツに 並ナラびて

第ダイ四シ章シヤウ 一イツ列レツに 並ナラびて 最モト先スデ 最モト先スデ 一イツ列レツに 並ナラびて

最サイ後ゴ 旗ハタを 持モち 鞭ムチを 持モてり

號ガウ令レイに 從シひ 正テイ面メン 側ソウ面メン 或アルは 止トる

或アルは 止トる 步フ兵ヘイの 隊タイ伍ゴを 組クめて

操ソウ練レンを 為ナす 小コウ銃ジュウの 形カウに

木キ砲ポウと 小コウ銃ジュウの 形カウに 甚シ勇ユウま

木キ砲ポウと 小コウ銃ジュウの 形カウに 甚シ勇ユウま



足アシ並ナラび 太タイ鼓コ 喇ライ叭パ ○ 紅カウ葉エウハ

木キ葉エフの 秋アキに 至イりて 紅カウ色シヨク 變ヘンじ

總ソウ稱ショウ 世セ人ジン 是コレ 誤アヤれる 一イツ齊サイ 殊コトに 美ウツクし

通ツウ常ジョウ 最サイ著ジュウ 一イツ齊サイ 殊コトに 美ウツクし

之コレを 望ノゾむ 他タの 木キと 甚シ

區ク別ベツ 易ヤシき 行ユクり 他タの 木キと 甚シ

第ダイ五ゴ章シヤウ 各カク地チ 生シユウぜ ぎる 處トコロなく 其ソノ功コウ用ヨウも

道ドウ路ロに 植ウエる 其ソノ葉エフの 密ヒツなる

炎エン日ジツを 避サけ 風フウ雪セツを 防マぐ

を 以モて 炎エン日ジツを 避サけ 風フウ雪セツを 防マぐ

を得べし カゼユキノカ 四時とも バルナツア 庭園に植 ハシラヤウツ

ゑて ウヘツケテ 賞愛を ホメテ 柱梁に用ひ ナクレウ 器具を製もべ バリニツカフ

船舶 フ 河橋 カハニカ 日用諸種の器具を製もべ ニモ

其脂を マツノ 物に塗りて ニヌ 燃ゆる ヒノ

腐敗を防ぐ クサリヲ 材葉とも ハモ 吾 ゴ

薪柴と為まよ宜し ニシテヨイ 圓く マモ

人の住居を ワレヒト 其面 セカイ 圓く マモ

して球の如きものあり マルキコトクマノ 海邊に立ち ヤウナモノシヤ

地球 チキウ 証せんと シルシ 海邊に立ち ニハ

て ウミベニ 全体 マツクキ 遠く去るに トホ 従ひ シカ 船 フネ

体 フ子ノ 漸く隠れて カク 遙く去るに トホ 従ひ シカ 船 フネ

端 ホバシラ 終 ハシラ 唯 タラシ 久しく其全体を見得べ トホク

き子 チカイコトフ子ノドコモカモ 然らざる所以のものを シカ

海面 ウミノ 大別 オホビ 固形体 カタマタ 金 キン

第六章 マンブツ 萬物 マンブツ 大別 オホビ 固形体 カタマタ 金 キン

石 イシ 流動体 リウドウタイ 油 アブ 氣 キ 熱 アツク 煙 ケム

蒸氣 シヤクキ 冷ゆる ヒヤク 氷 ヒヨ 熱 アツク 煙 ケム

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ


味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ

味 アジ 香 カ 鼻にて知り ハナニテシリ 剛柔 コウジュウ



皮膚ヒノカカラダハハ **五官** 取目ノノノ鼻ノノノ皮ノノ **知識** 然然レモソウジヤ
 近來キンライノチカハ **盲者** モモク **啞者** ヲ **相競** ふて タカセニワ **之** コレ
 入り ハイリ **其業** ヲ **修め** ヲ **恥** ツ **身** ヲ **立**て **家**
 を興コス ノ **實** ニ **耻** ツ **濁** リ **た**
第七章 **砂** シロキ **混** ズ **清** キ **水** スミク **濁** リ **た**
 る **水** ヨコレ **斯** ノ **如** ク **交** ル **お** の **づ** ら
 る **曲** リ **友** ヲ **撰** ぶ **を** **強** いて **被**
 を遠トサげんとモろりも アシキトモガヨリツカ ヲヤウニスルヨリモ ○ **琴**
 星 ハウキ **嘗** て **然** り **箒** の **如** き **尾** を **ひ** き **り**

ハ、キノヤウナ **世間** **凶事** **果** して **信** なる
 ヲ、ツケタリ **否** **決** して **妄** **説** **毎** **夜** **種** **々**
 や **説** **唱** **物** **理** **妄** **説** **夥** **多**
第八章 **各** **隱** **顯** **の** **時** **期** **呼** **び** **返** **し** **妄** **に** **驅** **廻** **り**
 爰コニコノ **遊** **心** **を** **奪** **え** **れ** **妨** **ぐ** **る**
 暴アキナ **請** **ふ** **勞** **測** **り** **得** **る** **や** **慎** **み** **状**
 を見る **正** **く** **腰** **を** **屈** **め** **慎** **み** **状**


答ふる 行状 温頓 命を

聞き 脚の健ならざるもの 稍險

き道 厭へり 到底 堅あらざる

高き 濁る 進む 憚れり 氣小よ

て 志厚のりざる人 得ざる 忽 堪忍

びて 事業 決して 得ざる

第九章

昔時 兄弟姉妹 一個の輪を

與へ 練り 相親みて 争ひ 罪を

免せん 睦ありざるを責め

一室 禁 譲

り 猶 効 更

よ 一箇 行 更

喜 益

枝に 満ち 益

第十章

異あり 氣候 極て 寒く 氷塊 氷雪

四時 消る 半年 氷塊 家

を造り 毛皮 衣服を 製し 魚油

を飲む 皮膚 頭髪 裸体 常



如何なる 運動

場 体操

別に 室内

季候 櫻

猛獸毒蛇 人畜を害む 地誌を學び

山河草木 嘗て 他日 水中 泳ぐ

○其理 水 舟 自由

櫓或ハ 權 船 飛翔

方 向 空 中 飛 翔

翼を動あてて進み 空 中 飛 翔

第十一章 一羽の燕 傍 孔 巢

奪えれ 毎に 翌日 泥土を含み 數回 頼みて 困苦 戒め



第十二章 暗き 己の惡事の顯せん

言 語 爽 正 しく 視 る 倂 令

一 時 巧 に 隱 一 己 の 惡 事 の 顯 せん

明 に 罪 を 述 べ 謝 せ 路 傍

生 ぞ 踏 過 ぎ 顧 る も の

静 覺 ゆ ル 軸 絶 え ば 旋 轉 地

球 自 轉 一 處 止 ま る 丸

方 迴 轉 公 轉 晝 夜 所

以 周 圍 費 せ 己 の 惡 事 の 顯 せん

言 語 爽 正 しく 視 る 倂 令

一 時 巧 に 隱 一 己 の 惡 事 の 顯 せん

明 に 罪 を 述 べ 謝 せ 路 傍

生 ぞ 踏 過 ぎ 顧 る も の

な ー ナントモ 避けヨ 手を觸せテ 貧き ナン 侮ハツ

カシ 輕 ー ム ナンモナイ 職業ゴト 勵ミ タツトノ 功を成

モ テカラフ 敬愛 ウヤマヒカ 富貴 タツトキ 朽ることなり

スタ カウフク 幸福 ハビ 貴賤貧富に因らば タツトキイヤシクマツシキ

第十三章 昔者マハ 伶利カシ 一女ムスノ 年甫て五

歳 ナリシニ 叔父某袖中より ヲヂノソレガシガ 饅

頭 ガルタヘモシ 戲 ナグ 謂て曰く イフテ 給

らむ クダサレ 答 ジニ 兩箇 フタツ 美味 アジキ 再

發 屯 ダス 感賞 カンミンシ 意ハコハ 輕重 カルキ 戲言 ムレ



コトノヤウ ナ ケレド 終身 ハルマテ 鑑 テホ 通信リ 運漕 モノヲ 開化

遅速 ハヤキト 僅よ カウツ 路を隔つ ヒアレバ 一封の書

状 ノヒトツミ 容易 スク 一包の荷物を輸る ヲハコブニモ 達

せ べ カヌ 蒸氣 船 ユノワキアカル 陸 カ 蒸氣 車 ヲカヲユク 電

線 キノイト 郵便 音信を通ト トヨリシ 日を期して ヒシ

諸物を輸リ ノヲハコブ 瞬時 クマ 怠らば ユタン セヌ 學

業よ 勉強モベ ー マナビコト ニツトメヨ

第十四章 某神社の前 ナニガシカミノ 銅馬 アカマ子ニテ

傳へいふ ムカシカ 祭日 マツリ 神の終日 乗り カニサマ

スクリ タマフ	全身 <small>カミタ</small>	汗 <small>アセ</small> を發 <small>ツク</small> き	昔 <small>キ</small> 時 <small>シ</small>	奇 <small>キ</small> 異 <small>イ</small>
コト	稱 <small>ホム</small> せざる	今 <small>イマ</small> 世 <small>セ</small>	驚 <small>オドロク</small> く	夫 <small>コトバ</small> ハ
昇 <small>ノボ</small> ル	冷 <small>ヒヤ</small> 物 <small>モノ</small> に遇 <small>ア</small> へ	殊 <small>ト</small> に温 <small>ユク</small> 暖 <small>カク</small>	凝 <small>コ</small> りて	熱 <small>アツ</small> キ
ル人	燈 <small>アキ</small> 火 <small>ヒ</small>	社 <small>ヤ</small> 傍 <small>カ</small>	豈 <small>イ</small> 銅 <small>ドウ</small> 馬 <small>バ</small> の汗 <small>アセ</small> を	露 <small>ロ</small> 滴 <small>テ</small> とな
ある	○語 <small>ゴ</small> に曰 <small>イハ</small> く	之 <small>コノ</small> を妄 <small>マダシ</small> 信 <small>シ</small>	奢 <small>セ</small> り	光 <small>クワ</small> 陰 <small>イン</small> を
徒 <small>ト</small> 費 <small>ヒ</small> まる	貪 <small>ヒン</small> 富 <small>フ</small> 賢 <small>ケン</small> 愚 <small>グ</small>	威 <small>イ</small> 刀 <small>トウ</small>	至 <small>シ</small> 重 <small>ジュウ</small> の寶 <small>ホウ</small> に	斯 <small>カ</small> る
イタツテマモ キタカニ、テアル	比 <small>ヒ</small> に	奢 <small>セ</small> る	深 <small>フカ</small> く	戒 <small>カイ</small>

徒トに費ヒまるハ 比ヒに何ナニら比ヒに奢セるの最大サイダイ

なるものといふべし 深フカく戒カイ

めざるへけんや

小學初等讀本卷之三終

大島細吉 編輯

第一章

働く 手足 具へ 思慮 自

盡し

コノコトヲ 勞して 厭ふて 依頼 不具

者

異ふらば 天賦 富を神は 祈り 悲苦

招く

マ子キ 懶惰 富を神は 祈り 豊饒

佛に

禱る 歡樂 望む 事物 道

深く省ざるをあらば 望む 事物 道

第二章

功用 最大 生命 保つ

田畠を

濕して 穀菜を養ひ 運漕を便よ

舟筏を

浮べ 運漕を便よ 運漕を便よ

水車を

轉し 擧るに違あらば 性質 作用

工夫

勞力を加へ 性質 作用

有益

話 物理学

第三章

猶一 根 諸枝 幼時 居

食を

共よ 成長 遂ぐる 終

身

相和して 事を執り 争ひ

○毛利元就	○名將	病ミ將ニ死
せんとい	諸子	召一
抽	相依りて以て固	卒
ウナル	敗	慎
て	領	尺
第四章	富士山	我國第一の高山
マ	望む	半服以上
頂上	積雪	の絶ゆることなし
モ	嘗て	雲雨
山腹	記	起り

カホド	雷聲	脚下	電光	眼下	疾風
ハカシ	景况	異り	愛	情	敬
第五	人	の我を愛せざるを	敬	禮	足らざる故なり
情	身	を卑し	辞	を厚く	て
懇	接	一	師	父	の教を守り
學	藝	敬	愛	禍	福
幸	に	陷	る	怨	み
第六	麥	の種	類	頗	多
類	類	類	類	類	類

亞ツ穀物モク 粒食ツツ 麥酒ムキ 索麵ソウメン 醬カウ
 油イ 滋養分シヤウ を含フむ 温飩ウン 燗カウ 燗カウ 燗カウ
 穀上コク 容易ユウイ 脱去ダツキョ 春ハルきて 炊カクきて
 殖シクる 消化コウ化 最速サイソク なり 原野ゲンノ 自ジ
 生シ 用ヨウ を為ナさ 穀コク 糶カウ 牛馬ウマ 飼料コウリョウ
 粉コ と合カして 瀆物ダツモノ 汁シユ 有ユ益エキ 水スイ
 肥料ヒョウリョウ 注意チュウイ 溜置リュウシ 種子タネ 浸シメ 有益ユエキ 水スイ
 蒔マキく 子コ オロス

第七章 其方向コウカウ に依ヨり 光線クワセン 温熱ウンネツ
 風力フウリキ 濕氣シツキ 樹木ジュモク の成長チヤウシヤウ 發育イク 概カウ
 於オケて 北面キョウベ の山ヤマ は 生シ ざる 遲緩チケン 林形リンケイ
 迅速ジュンシユク 材質サイシツ 緻密チウミツ なら 遲緩チケン 林形リンケイ
 不整フセウ 堅軟ケンカン 其中ナカ を得ユる 家屋ケウ の建築ケンキョウ は 適テキ
 て 善良シヤウリヤウ なり 形状ケイザウ ○ 薪シヤク に 炭タン
 是コトる 器具クウキ 製作セツサク 薪シヤク に 炭タン
第八章 憚レンる 忽コト 嫌忌ケンキ 親シヤク 事シ 狀ザウ 起キ
 貴キき 位イ に 居イる 遠慮エンリョ 世間セケン 起キ
 小字コジ 寄賣本キヤウバ 卷四クワンシ 二十三

るツタ争闘アラノヒ必竟ヒキヤウ互タビに相狎アヒきてニタシク言ナリテ

行カウ肝要カンヨウとニ肝カン

第九章 古時コトシ支那シナ唐トウ代ダイ黄鐘ワウチュウ

童子ドウジ皇帝クワクテイ庭前テイゼン試シ筆跡ヒツセキ麗レイ

驚オドロのモざるセザル聖壽セイジュ無疆ムキヤウ命メイぜら

此コノヲホセ筆ヒツを執シツクらル唯ヒト拜ハイするスル字ジ

畫クワク敏ミン系ケイなるガ對タイへテ曰イハくシラヘ児コの忍ニンび

ざるワタシノタヘ坐ザ上ジョウ清セイ潔ケツなるシ席セキを給キたら

バカリツハナザシキラ感カン賞ショウ僅ワカに四シ歳サイの童子ドウジ

タツタヨツノコドモニ而シカるソウにアルニニ思慮シヨの至イをカスノ

如ゴトコノヤウノモノト耻ハづベきノ至イりナらバヤトニコ

第十章 梅林ハクメイリンの景色ケイシキありムノ満山マンサン皆ミナ梅樹バイジュ

にしてヤマノ木ノキ幾イ万マン株ササなるヲをシ知らズば

白雲ハクウン山サンを蔽カふコト如ゴトくヤマ

積雪セキセツ溪ケイに満ミつル盛セイ観カン總ソウ

に二ニ三サンの茅屋ボウウ暴雨ボウウに撃ウたレ風雪フウセツに



幾回イツクワのナシ暴雨ボウウに撃ウたレ風雪フウセツに

苦しめらまじ カセキノタメニナシ 然能く耐へ能く シカレヨ

忍び シノビ 賞愛を受くる シヤウアイヲウケル 數多 カウニホメラル、ヤウニナル

の艱苦 クハク 耐へ忍をぎを シノビウセナ 交る所の人 カウツタナレバ、ヒトトモ

第十一章 居る所の地 トコロノチ スルバシヨ 交る所の人 ヒトトモ

識らば シラス 賤き言語を吐き シヤウラヤコトバ 然り シカ

と雖 イヘモソウジヤ 蜘蛛の網を絶つごとく クモノアミヲツグ 然り シカ

漸浸染して シヅカニシメ 久きを経るときハ ナガク 鐵 テツ

の鎖を絶つ クワガ子ノクツク 改め難 カヘニクヒ 之を樹木に キヲツケ

譬ふきを コノコトヲキニ 初生の時に シヨセイノトキニ

第十二章 蟲類 チウレイ 美しき形を有 ウツクシキカタヲアヒ

愛をなす アイヲナス 聲を發して コエヲタテ 蠶 カキ 蜜蜂 ミツバチ

糸 イト 強く ツヨク 光澤 クワツク 絹の類 キヌノタガヒ 皆之を ナニカ

以て織り モツテオリ 真綿を製 マワタヲバ 一の事業 ヒトツ

可あらんや セズナラヌ 利益を與ふ リキヲアタヘル 一の事業 ヒトツ

第十三章 佛國 ブツクニ 學士 ガクシ 吉日 キチニチ 凶日 キヤウジツ

空く過ぐる ムナシクスグ 譬へ ナニモセスニツ 譬へ イフテミ

旅人の冬に逢ひ

寒風烈きあた

寸時ノ精を

に 暫くもスコシ

緩歩アルク

精を

勵ま 苟もカリシ

偷安の心を生むるや

だ と ヤスキヲヌスヤウナコマロラ

第十四章 京都

川井正直

自往日

事ふる ツカヘル

薄きを覺り

殊に言行を

謹モ ワケテコトバナリヲ

衣食を節

專父

母の樂を

常に我平生他の念ふ

一言を吐き

一事を行

ふ毎に 遺体

汚名

念ふの

我 性實

奉むる

如何を

見て 畧之を知る

と

第十五章 分限を顧

ざるべからず

資産に應

たる生計

貯蓄もなき

粗衣

粗食を耻と

外飾を務め

富

者に倣えん

愈困苦に陥る

救ふ 萬金を累

補ふがら 有益の事

業あるも トシノアルシ 惰 イヤカル 凍餒 トシノシ 逼る人 トコバ

ヘシナントスル 棄て カス 顧 スワ 専と モツ 専と モツ 専と モツ 専と モツ 専と モツ

まるく アナル 衆人の怨を招き ヲホクノセト 終に尤

不幸 コトサハシ 来 キク 来 キク 来 キク 来 キク 来 キク 来 キク

カ子モチガシカ子ノモリヲシテ 奢を好む ヲゴリヲ 奢を好む ヲゴリヲ 奢を好む ヲゴリヲ 奢を好む ヲゴリヲ

第十六章 井水 ツミ 冷 ヒヤ 温 ヌル 季候 キコウ 感覚 カンカク

にする コタヘルハガチ 暑氣 ジュキ 之に ココ 之に ココ 之に ココ 之に ココ

浴の時 ヨリノトキ 最初 サイジョ 湯の熱 ユノアツサ 之感 ノカタク 之感 ノカタク 之感 ノカタク

ニハ 暫 シラハ 暫 シラハ 暫 シラハ 暫 シラハ 暫 シラハ 暫 シラハ

シメシ 容易 ヨウイ に ニ 知り得る シルベ べ ヲ べ ヲ べ ヲ べ ヲ べ ヲ

第十七章 往古 ウコ 数里 スウリ の道 ノミチ を踏 フミ みて ミテ

師 シ のもと ノ に ニ 通 ツ ひ ヒ 者 ノ あり アリ あり アリ あり アリ あり アリ

寫 ウツ して シテ 想 ソウ 想 ソウ 想 ソウ 想 ソウ 想 ソウ 想 ソウ

志 シ 志 シ 志 シ 志 シ 志 シ 志 シ 志 シ 志 シ

第十八章 富者 フウシャ の世 ノヨ 人 ノヒト 子 ノコ 子 ノコ 子 ノコ 子 ノコ 子 ノコ

以 ヨリ 以 ヨリ 以 ヨリ 以 ヨリ 以 ヨリ 以 ヨリ 以 ヨリ 以 ヨリ

慈惠 ジケイ を施 シ 施 シ 施 シ 施 シ 施 シ 施 シ 施 シ 施 シ

善行 ゼンカウ 善行 ゼンカウ 善行 ゼンカウ 善行 ゼンカウ 善行 ゼンカウ 善行 ゼンカウ 善行 ゼンカウ

其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ

資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ

裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ

故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ

其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ

資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ

裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ

故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ

其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ

資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ

裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ

故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ

其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ

資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ

裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ 裕 ヨ

故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ 故 コ

其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ 其 ソノ

資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ 資 シ

昔時シ上野國カウツクニ星野ホシノ彌兵衛ヤヱヱ

祖父の世よりチイカラト樂ウレシキとあはル○天

保七年ホウシチネン國中クニナカ大にオホクニ餓ウツクシむドシカツヘル村民相謀り

てヒヤクセウカ將マサにボウ暴行コウをナ為スさんトとシ村民相謀り

村落を馳廻りケアラク懇コソ子論コソしてケラセツニワ金

穀コクを出イしてカチヤコ自ココをカ携カへコヲモチテ戸毎コトトく

賑ニギハをセシ一ニ懇コソ篤トクにカ感カづナサケフカキコ

慶應三年ケイオウサンネン物價モノバ俄トにカ騰貴トクせロクニコタヘテ

にモノ昔年キウニヤガル昔年セキネン夫の國ウチノクニヲサス



蠶絲サシの業ギヤウ子便コなるを以モツてカイコノイトヲコシラヘル製セイ

絲シの器キ械カを設セツけイトヲコシラヘルカラ小民コノミをシてキナ

第十九章イッサイチヤウ一掬イツクの泉水センスイもヒトニキリノイツ大船オオフネをウカ

べヲトヒナルフ子ヲウ一握イツクの土砂ツチサもヒトニキリノ大樹オオキを

生ヲホヒナルキトヲソクテ大石オオイシを戴イくライサの大山オオヤマとオるル

積ツクむカチヲヨセアツときメタシをメタシ大業オオギヤウを興オキむヲホヒナべきルワガ

積ツクむカチヲヨセアツときメタシをメタシ大業オオギヤウを興オキむヲホヒナべきルワガ

積ツクむカチヲヨセアツときメタシをメタシ大業オオギヤウを興オキむヲホヒナべきルワガ

積ツクむカチヲヨセアツときメタシをメタシ大業オオギヤウを興オキむヲホヒナべきルワガ

之を忽にもべからば キンセンヲソマツニ ○節儉の

道を守らざる者 ムダナコトハハアクノ 空しく小金を

費む ムダナコトニスコシノカチ 試に思へ タメシニカン 萬國

を致すの理あるや 一厘ノ金カナカツタナレバヲホクノ 諺

云ふ イヤシキコト 大教ハ自整ふる ツハヒナルカ

トナナセ アツマル 小兒の時より コドモノ 風のカに頼りて

第二十章 紙鳶 イカノコ 專 イズ 風のカに頼りて

或ハ降り オトリル 終始一處に静止せることを

得 イツマテモヲナシトコロニ 而して シテ 決して ドウシ

自起ち昇ることを得ざるなり ルヤハヤウヒヌ

志固 コトシカ らむ ニフキ 常に ヒト 人の力を頼み

タニンノチカラヲ ウタヘ 心を動 ウツク 業を變 カ ざるを

以て ルカラシテ 終始 シマヒ 心を イ 一事に專 モツ に屯

るを得 タマシヒヲヒトツノワザバカリニ 一旦 イツツク 人の助

を失ふ ウレナ と ヤウニナル 自起ち モツ 何 ニガ

事 コト を成 ナ 得 エ ざるや ニハ 必 カナラ せ ル 何 ニガ

の業 ウツ を為 ナ するに スル 自志 ミツク を立 ツク てる

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

スル ドシナフサチ 自志 ミツク を立 ツク てる クヲタテヌヒ

務め ホ子ヲラ

第二十一章 支那 ムカシカラ トイフタクニ 後漢 カラクニ 楊震 人名 昌邑 地名

此地の令 昌邑ノ 王密 人名 嘗て カタ 其旅館 ヲ

を訪ふて 謁見 揚震ノトマリシヤドヤヲ 金若干 キネシバカニ を懐 ヲ

よして ソコバクノカ子ヲ フトコロヘイレテ 遺りたり キンスヲ 我ハ能く ヲ

子の心を知 ワシハヲフヘガカ子ヲワシ 夜間 ヤ を ヲ

大 ヲ 愧ぢ ヒドク ツラカル ○ 其行 コト を曲 マ ぐるとき ハ

辱 ハ を受くる ツフサラスルヤウ ナリガアル 明暗 メイアン を以て ヲ

ヒルジヤカラセヌノ ヨルジヤカラスルナド

第二十二章 貝原益軒 人名 名 ナ 學 ガク を為 ナ せ ス 其 コト に マナヒラ

大禁戒 オホキムカエ あり マシノガアル 矜 ホシ の謂 イハレ たり ミツカラタカアル

大基本 オホキホン あり ヲホヒナルモ トヒガアル 謙 ケン の謂 イハレ たり ヘリクタル 苟 コウ

其惡 ミノ 日に長 チヤウ む アキキフガダン 道 ミチ に進 マシ ま ヨキ ん ニチ や ミチ

解 トク する ワカ 善 ゼン 日 ニチ ヨキコト ○ 農者 ノウジャ と雖 モトモト

高者 タカシヤ 深 フカク く心 ココロ を留 トドマ て ツケテホヘテラレ

第二十三章 風船 フウセン の話 ワザ 空中 クウチュウ を行 ユク く ソラヲ

制衣法 セイイフフ ヘカタ 絹 キヌ を以 モツテ て ス 大 オホク なる袋 フクロ

を製 ツクリ 一 ヒト フクロ フクロ コレ ヘテ 護 ゴ 謨 モ を ツケ 塗 マシ



りて布目を塞ぎキムヲヌリツケテ 水素瓦斯クウキ
キヌノヲリノヲツケ
ニテルーツ 籃船を付けカゴニツクリシ 空中へ昇りソラ
ノケンソ 往來をるなりユキハスル ○煙の上に昇るホ
ケムリガソラヘ 油を水中に注ぎ見よアブラヲミヅノナカ
アガルワケハ 必上面に浮ぶキツトミヅノウヘニウク 氣體ケムリ 液エキ
キマツタルベキ 此理コノワケカラ 外ホカ 自然の定則シズメ に
モ 第二十四章 阪東某ヒノノチ 日蓮上人ニチレン 僧名ソウノナ 親筆シンペン 劇キョク
カヒタ 曼陀羅マントラ 佛經ブツキョウ 鑑定を請へりタケムヲ 惜むら

くハヲミキコ 偽造品キウゾウヒン 裂んとサカ 比ヒ 劇キョク
ニハ 假令カレバ 真物マコト ありアリ 比ヒ と 雖イハレ 識別シキベツ 無益ムギキ
ニハ 模擬モネイ 甚巧シキウ なるナリ と 以てモツ 偽ニセ を 知りてホドシ 之コレ を 言コト を ざシ
ナシ 怒りてイカリ 曰くイハク 偽ニセ を 知りてホドシ 之コレ を 言コト を ざシ
ルハ 欺アソム くク 即ス 盜賊トウソク 失言シツゴ を 耻ハズレ
スヒト 爐中ロウチュウ に 投ナゲ ド たりナリ 欺アソム くク 即ス 盜賊トウソク 失言シツゴ を 耻ハズレ
デアアル 第二十五章 農事ノウジ 土壤ドウノウ の 性質セイシヤウ と 肥料ヒヤウ の 成分セウブン を 明アキラカ に 示シ る よりヨリ
ヒトクシ 第二十六章 土壌ドウノウ の 性質セイシヤウ と 肥料ヒヤウ の 成分セウブン を 明アキラカ に 示シ る よりヨリ
イハシ 第二十七章 肥料ヒヤウ の 成分セウブン を 明アキラカ に 示シ る よりヨリ

財を費して カ子ヲ 力を尽して ホ子 試験 シテ

農家に在りて ヒヤクニヤウ 算術 サシ 旧来 キウライ 肥 ヒ

瘠 シツチノコ 判定 ワカチ 唯 ヒト 收穫 シホ の多寡 タウ を見る

に止りて トリヘノ 正鵠 セイカク を得ざるもの マツ

に因り ヤセタルカコヘタルカノモ 正鵠 セイカク を得ざるもの マツ

を留めて カクベツキ 脩むる アツク 他日 コレカ 殊 コト 意 コト

第二十六章 短所 クソ を擧げて ヒトノアミキト 誹謗 ヒバク を

する ソレル 怒 イカリ を發 ハク せむべ ハナラヌ たらん ハナラヌ 顯 アハ せ シラス

古人云へるあり イニシヘノ 譽 ホメ る ル 中 ナカ らん

と雖 イフクゴトクニ 遠 トホ らん アル 細川頼 ホシガハ

之 コノ 人 ヒト の姓 セイ 嘗 カシ て過 アヤ ち マ 有 アル 司 シ 其 コノ 無 ムシ 禮 レイ を責 ツク め

之 コノ を誹 ヒバク る ナシヤウテ 有 アル 司 シ 其 コノ 無 ムシ 禮 レイ を責 ツク め

ケラ ヒノ ヲヤ マヒ ナキ ナシ 祿 ロク を削 キズ る フチヲト 他 ヒト 日 ヒト 名 ナ 士 シ ム ム ラ イ イ

アル 直 子 サマ 復 カヘ 具 ツ 過 ト 料 リョウ と称 ナヅ して マ チ

レ ノ 窮 キウ 民 ミン に施 セ 鴨 カモ 河 カハ の堤 ツツ 防 ボウ を築 キズ き

カ モ ハ ノ ツ ハ 水 ミヅ 害 ガイ を備 ツク へ コト 時 トキ

人 ヒト 呼 ヨブ び テ 時 トキ 人 ヒト 呼 ヨブ び テ 時 トキ 人 ヒト 呼 ヨブ び テ 時 トキ

第二十七章

家道訓ノ書物

昔の穴子挿みノアナニ

スモキ

茅屋

穀肉を食して

コノルイニクルイ

木實

草根

飢餓

苦しめる

ウヘニナン

絹を着て暖

あまむ

キヌノキモノヲ

弁服の民と

ムカシノクサヲアミテ

ソツナキ

憫むべし

キナル

召し使ふ奴婢

シモツカヒノ

シモ

水汲

自炊くの苦を察せ

シモツカヒノ

ノシヲタククル

分外の望み興らざるを

ミフニスキ

クハラモヒ

タ、ヌヅ

第二十八章

商人ノ缺くをりざる

アキウトニチケ

勤勉ノ節儉ヲハフク信用ウツテナイトシモチヒル身体を

勞ツカシカヒ思慮を回らし寸時も空く費

せことなく其業に務むるをいふ

冗費を省き其業に務むるをいふ

忽よむるニスル資本の増加を計

誠實を旨として

不正の所為なく

才智優ると雖

事を成す

能を以て

能を以て

能を以て

能を以て

能を以て

能を以て

能を以て

第二十九章 往時シカ 紀州名和歌山トコロ名 附木

屋九兵衛 名貯蓄タクヘ 富豪豈期一難やらん

やも カ子モチトナルハコ、ロノキヤウヒトツテトキ 夙に起きアチ

キル夜に寐ね 子ムリニツク 家産漸加をり トシタイタク

稍ズイ ○勸めて曰く スマダ 賤職にして イヤシキ利

薄一 マツケカ 他職に轉トふを如何と ヘテハドウテアロ

聴の成して曰く レイヤウチセズ 忍耐の一事に在る

の之と ノノヒタヘルノヒトツ 愈勉めて ホチリ愈息まは

ヲタクラス止を得をして ナシニト ○近隣の人々 トナ

ンベンノ 開店 ミセ ビラキ 買客店に満ち モノラカフ人 晝夜絶

ゆるとな ンキルルヲナク 月に榮え ツキくサ 猶田

を忘をさるために マダモトノツケキワザ 号一ケル 勤勉

旧小異あらざりしとぞ ツトノホ子オルコマヘニ

第三十章 古人曰く ノイフノニハ 新鮮なる空氣

を アタラシキ 健康と シヤツ勇氣ミキイサ 品行をして チモ 尊

くものなりと モンテアルト 信ある哉 テアル 不潔の

氣を呼吸する時を キタナヒタクキヲスイ 体温自減少

一 カラダノタクミガ シゼンヘル 全身に戦慄を生一 カラダシエウガフル

發ハツならニばキシヤウカヨソクナル 發ハツ醉物ヲを飲用セるに在る
なりサケナドヲノミテカラダ ○空氣交換ノ良否ヲ因
りクウキノイリカワル 利害ノ分るル所ガウチノチ

畫列初等讀本卷之四終

明治十七年十二月十二日版權免許
全 年 全 月 刻成發兌

編輯兼出版人 京都府平民 大島 細吉

下京區第拾三組
八文字町四番戶

賣 弘 呀 最 寄 書 林

和漢西洋御書籍製本所

高中初小學校生徒用書籍類

繪本類

子たちよあそびの画か
わらわい。さうり。さうり。は
はぎものもみちのりく

和文か

費の集
りさげのか

壹運堂并梓内藤彦

東京市四條下元大塚



7

寄函
中川正治郎